

ENJOY BOUSAI

（前）西谷9代目 西谷 友里さん



山形で商売をさせて頂き、当社は今年で273年目。「お薬と生鮮食品以外は何でも売っています」という、なんともアバウトなキャッチコピーを掲げていますが、何でもやさんであることに心からありがたさを感じております。現在私は9代目として、そして3人の母として、非常食や衛生用品を詰め込んだ防災ボックスの事業に力を入れています。テーマは「ENJOY BOUSAI=防災を楽しむ」です。

防災を楽しむなんて、何だか軽すぎないか？という声も寄せられたのは、事実です。もちろん、防災は真面目に取り組むもの、命を守るための取り組みなのは分かっています。でも、どんなことでも楽しくないと続かない！防災が楽しくなれば、もっと広がるはずという想いは捨てきれず、ENJOY BOUSAIをテーマに「おいしい・オシャレ・いつも使える」を重視した商品の企画・販売に取り組んでいます。

東日本大震災から10年。当時私はテレビ局で働いていました。大きな揺れでフロアも停電しましたが、すぐに非常用電源により明るくなり、そこからは心臓がバクバクするような時間

が過ぎました。すぐに被災地に向かう取材班、目を覆いたくなるような映像、一瞬にして嵐が巻き起こっているかのような局内の雰囲気や10年経った今でも鮮明に覚えています。

そんな日々が続き、会社のある自宅に戻った時に、1人の男性が座っていらっしゃいました。なんと、福島県の南相馬から、ありったけのガソリンで水のポリタンク1つを買いに来られたというのです。男性は「山形ならあると思って。人に聞いたら、西谷さんを教えてもらいました」とおっしゃいました。災害時に必要として頂いた驚きと喜び、まちの防災やさんがある意味を男性に教えて頂いたあの瞬間こそが、今の私の原点です。

1人娘として生まれたので、後継ぎの3文字は幼いころから頭の中にはありましたが、その瞬間に覚悟が決まったと自覚しています。今、私はママ防災士・消防設備士として県内各地で防災講座をさせて頂きながら、5年保存の非常食ごはんや甘いもの、衛生用品を同梱した防災ボックスに想いを注いでいます。全国の方々の災害時の不安や悩みに関するお声や、震災を経験された方々の実体験・本当に必要だったものをリサーチする、これが私の最も大切にしていることです。「経験や想いを次につなげる」という想いで、20代・30代の若手社員で構成された防災ボックスチームからは、オシャレで本棚収納可能なデザインや、非常食をいつもごはんにするためのアレンジレシピなどが新たに生まれています。

今年の3月には、twitterで集まった声をもとに、のどごしの良い甘い非常食などを同梱した「こころ咲くBOUSAI BOX」を発売しました。いつもがいつもだから備えられるという幸せを、より多くの皆様に感じていただけるように、これからもENJOY BOUSAIをお伝えしていきます。また防災関連の商品に関わらず、これからもお客様のお声に寄り添い続けていくこと、山形の地で商売ができる幸せを忘れないで、3人の子供たちの子育てと仕事に取り組んでまいります。

（防災士・消防設備士・一般毒物劇物取扱者）